

美術随想(9)

ウォーナー塔碑の建立(その2)

大和文華館々長 石澤正男

U博士が電話で反対の意向を表明されたので、私は親しくお目にかかって御諒解を得たいと考えました。ところがU博士は早速法隆寺に足を運ばれ間中管主、大野副住職らに面会されて、ウォーナー塔の建立の由来を誌す石碑建設の企画があるそうだが、自分は賛成できない。元来ウォーナーさんは非常に謙遜な方で御自分の功績を顕彰されることを極度に嫌われていた。従ってあの五輪塔があるだけで充分だと思ふ。それを今更石碑を建てて由来を明にするのはウォーナーさんの意志に反する行為だから反対である。全く無用のことだと考えたのでわざわざ自分の意向を伝えるにやってきましたのである、との強硬な申し入れをされたのであります。ウォーナー塔建立は昭和33年6月9日に落慶供養が挙行されたもので時の法隆寺管主は大僧正佐伯良謙師でありました。従って当時の事情にやや疎い法隆寺の脳部は、U博士がウォーナー塔建立に主役的地位に立たれて、少くとも主役的地位に立たれて一人であると考えておられたようで、お寺側にとってU博士の反対意向は意外に強く響き、お寺側を一層消極的にし、建立を躊躇する態度が濃厚になってきました。

こんなことで挫折するようでは余り不甲斐ないこととなり、先生の御念願を無にする結果になると思い、一方法隆寺からウォーナー塔建立当時の関係記録の写しをい

ただき、他方ウォーナー塔建立奉讃会長細川護立先生の側近で私が東京国立博物館に奉職中の親しい同僚であった杉村勇造君(現在出光美術館嘱託、大東文化学院大学教授の地位にあります)に当時の委しい事情を聞かせてもらいました結



ウォーナー塔及び塔碑(左)と鐺嶺埒(右)(法隆寺西院境外)

果、U博士は全く主役的な立場ではなく、細川会長の御意見では、あの男を発起人に入れると成るものも成らなくなかなかねないが、発起人に加えずにおくとまた嫌がらせをする恐れがあるから、とにかく一枚加えておけ、ということの名前を出してもらったのだという事情が判りました。先生とは長い間の親しい御友人ではありますが、それだけにU博士の性格をよくご存じであり、あの人の性格の

一面をよく物話っている挿話として充分御理解いただけるかと存じます。そこで私も法隆寺にまいり、こうした当時の打明け話も率直にお伝えし、お寺側も諒解して下さいましたので、U博士の反対を敢えてとりあげずに石碑建立に重ね

彦君が非常に尽力して下さいました。記念碑の写真はカラーでとりましたので後ほど郵送いたします。

莫大な御献金をいただきました先生の御親友カール・A・ワイヤーホイザー(Mr. Carl A. Weyerhaeuser)様には12月11日付で手紙を差しあげ、御厚志を深謝いたしました。カラー写真も後ほどお届けいたしますが、この手紙に申し述べましたような経過については、御迷惑ながら先生からお聞き下さるように申し添えました。どうぞよろしくお願いいたします。

まだ御報告すべき事項が沢山残っておりますが、余り長くなりましたので、この辺で一応打ちきらせていただきます。

御令室にくれぐれも宜しく御厚声のほどお願い申し上げます。

御健康と御多祥を遥に希念いたしております。 敬具

1973年師走23日

石澤正男

以上が前号に書きましたように、ウォーナー塔の傍に、富田幸次郎先生の御希望により浄財を集め、表面には一人の名前も出さず、全く匿名の行為として建立されたウォーナー塔碑建立の経緯を、富田幸次郎先生宛に報告した私の手紙の概要(2、3中略の部分あり)であります。

(52.11.2.つづく)

季刊 美のたより No.41

昭和52年11月20日

発行 大和文華館